様式１－１

# 文化遺産総合活用推進事業　実施計画

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 都道府県・市区町村名 | 明石市 | 2 補助事業の種類 | 地域文化遺産活性化 |
| 3 実施計画の名称 | 明石市の文化遺産総合活用推進事業 | 【計画の改善時期】<br>平成 30　年度 | |
| 4 実施計画期間 | 平成　29　年度　～　平成　33　年度 | | |

**5 実施計画の概要**

明石市文化芸術創生条例（平成２１年）を踏まえ、次の事業を実施する。
（１）地域にある身近な文化財を活用したウォーキングや記録した成果物の配布や電子データの配信などによる情報発信
（２）歴史や遺跡を巡るボランティア養成講座の開催による人材育成と市内の遺跡などの関連文化財郡を広く紹介する普及啓発等
（３）市内に現存する地域固有の伝統芸能及び民俗芸能に関する用具の修繕、後継者育成等

また、本事業に参画する文化財保存団体や伝統文化保護団体等と連携し、当事業を遂行することにより、市民の伝統文化等に対する意識の向上及び観光客の増加につなげていく。

**6 実施体制**

本事業については、明石市が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。
　主な担当課、役割
　文化・スポーツ室文化振興課：伝統文化の後継者育成に関する指導及び文化財の保護・啓発等に関する指導等。

また、事業の実施については、次の団体が実施。
　明石市の文化遺産総合活用推進事業実行委員会
　（「⑤実施計画の概要」における全ての事業を実施。）
　構成メンバー（明石市文化財審議会委員２名、NPO法人代表、明石観光協会前会長、明石市文化団体連合会役員）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 7 実施計画における目標と期待される効果 | 別紙①のとおり | | |
| 8 補助事業の概要 | （1）補助金額 | ～平成29年度交付決定額：　93,254　千円 | 平成30年度申請額：　10,038　千円 |
| （2）実施事業の概要 | 別紙②のとおり | | |

**9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）**

1.想定される効果
（１）文化財の調査研究や普及啓発を市民団体が主体的に担い、市民目線で事業を推進することで、より効果的な市民との連携や広報活動が行え、これを機に交流が少なかった行政とも更なる事業の連携や事業効果の 拡大が期待できる。
（２）散逸の危機にある多様で身近な文化財を保存し後世に継承できることが期待できる。
（３）市民への文化財等に対する意識の向上、興味関心の喚起が期待できる。
（４）市外からの観光客の増加が期待できる。

2.効果の測定方法
（１）各事業の参加者へアンケート等を実施するとともに、事業実施団体から事業結果・効果について報告を受け、効果を測る。
（２）市関係部局が実施する観光・文化芸術及び文化財に関する統計の分析を行う。

**10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）**

| | |
|---|---|
| 事業概要： | １．明石市芸術祭（市単独事業）<br>民謡・民舞、邦楽、茶会、いけばななどを、体験、鑑賞していただく事業を実施し、市民に伝統文化に触れる機会を提供する。 |
| 事業概要： | ２．第20回明石薪能の開催（市単独事業）<br>伝統芸能を継承するとともに、市民に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより伝統文化に親しむ機会の拡充を図る。 |
| 事業概要： | ３.街角イベント推進事業の実施（市単独事業）<br>音楽の活動をするグループや個人に発表の場を提供するとともに、市民が身近な場所で音楽に触れ楽しむ機会を提供する。また、賑わいのあるまちづくりにも資する。 |

**11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等**

市内の歴史文化の特性を把握し、平成31年度より3ヶ年計画で、庁内の観光や政策、都市計画の部署と連携して「明石歴史文化基本構想」を策定する予定である。

**12 担当部局**

| | |
|---|---|
| 地方公共団体<br>担当部局課 | 明石市市民生活局　文化・スポーツ室　文化振興課　文化財係 |

## 7 実施計画における目標と期待される効果　別紙

| | | | |
|---|---|---|---|
| 目標区分１： | 地域の文化資源を活用した集客・交流 | | |
| 評価指標区分１： | 地域の文化遺産への来場者数　（具体的な指標は次のとおり） | | |
| 具体的な指標１： | 明石城櫓等、文化遺産施設への来場者数 | 関連事業： | ⑦ |
| 目標値１： | 【現状値】 平成 28 年度 5,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 12,440 人 | | |
| 設定根拠１： | 平成27年度明石観光入込客数の伸び率1.2倍を参考として、毎年度伸び率1.2倍と設定 | | |

| 進捗状況１： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
| 6,000 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 13% | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 目標区分２： | 地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化 | | |
| 評価指標区分２： | 地域に誇りを感じる住民の割合　（具体的な指標は次のとおり） | | |
| 具体的な指標２： | 地域住民意識調査の「地域に愛着を感じる」の割合 | 関連事業： | ①②③④⑤⑥⑨⑩ |
| 目標値２： | 【現状値】 平成 28 年度 55 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 58 % | | |
| 設定根拠２： | 平成28年度までの毎年度平均伸び率0.3%に対し、2倍の0.6%を設定 | | |

| 進捗状況２： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
| 56.6 % | % | % | % | % | % |
| 53% | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 目標区分３： | 伝統文化の継承体制の維持・確立 | | |
| 評価指標区分３： | 祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数　（具体的な指標は次のとおり） | | |
| 具体的な指標３： | 実施計画団体の保存会（小久保村、鳥羽町内会、和坂太鼓保存会、稲爪神社神楽獅子舞大蔵谷西之組、西八木自治会、清水自治会太鼓保存会、松陰農会、鳥羽野々上自治会、谷八木自治会、東嶋自治会、ファミールハイツ明石自治会、福里自治会、王子布団太鼓保存会、西島自治会、大蔵谷獅子舞保存会、的射行事保存会、西大窪自治会、岩屋神社布団太鼓保存会、山の下伝統行事保存会）の総会員数 | 関連事業： | ⑪～㉙ |
| 目標値３： | 【現状値】 平成 28 年度 500 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 1,360 人 | | |
| 設定根拠３： | 市内10団体での1団体年間増加平均が10人であることから設定 | | |

| 進捗状況３： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
| 600 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 12% | | | | | |

**様式１－１別紙②**

**8（2）実施事業の概要　別紙**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業①： | 仮称「江井島歴史さんぽ」（歴史資料集）電子データー作成 | 実施団体： | 江井島まちづくり協議会 |
| 事業区分： | 情報発信 | 事業期間： | 平成　29　年度　～　平成　33　年度 |
| 事業概要： | 平成29年度作成の（仮称）「江井島歴史さんぽ」約60ページを江井島まちづくりのホームページに掲載するためのデーターを作成する。「江井島ネット」http://eigashima.netにアップすることにより、地域や世代を超えて、情報を共有することができる。 | | |
| 評価指標区分： | ・ホームページ閲覧数（ＰＶ数） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 文化遺産を紹介した冊子の内容を江井島コミュニティセンターのホームページ上に上げ、その閲覧数 | | |
| 目標値： | 【現状値】　平成　28　年度　200　人　⇒　【目標値】　平成　33　年度　600　人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 300　人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 25% | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業②： | 「明石の文化遺産」発信・活用事業 | 実施団体： | ヘリテージ明石 |
| 事業区分： | 情報発信 | 事業期間： | 平成　29　年度　～　平成　33　年度 |
| 事業概要： | 地域住民や学生たちと協働し、建造物や明石市中心市街地の西国街道沿いの古いまちなみを形成する地域の固有の資源を掲載した文化遺産のマップを作成し、地域内外に配布し、明石の文化遺産の発信に努める。この情報発信により、文化遺産を再認識し積極的な維持保全や地域の活性化を図る。また地域外の方々に地域の建物・まちなみを地域固有の資源と組み合わせて発信することにより、地域の特徴や良さをより認識してもらえると考える。またヘリテージマネージャーを中心にまち歩きを行い、ガイド講師の育成も図る。 | | |
| 評価指標区分： | ・ホームページ閲覧数（ＰＶ数） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | ひょうごヘリテージ機構のホームページに調査内容等を掲載、その閲覧数 | | |
| 目標値： | 平成　28　年度　1,000　人　⇒　平成　33　年度　5,000　人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2,000　人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 25% | | | | | |

| 事業③： | あかし文化遺産情報発信事業 | 実施団体： | 明石の文化財調査団 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 情報発信 | 事業期間： | 平成 30 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 明石市内には数多くの文化遺産が点在しているが、解説を付した標柱がないものも多く、地域の中でもその概要を知っているものがほとんどいない状況である。こうした文化遺産を知り、地域の歴史に愛着と誇りを持ってもらうことを目指し、明石の文化遺産の概要をわかりやすく紹介したパンフレットを1000部作成し、市内の公共施設等に配布する。また域内の文化遺産の情報を発信し、普及活用していくための地域住民向けの講座を開催する。 | | |
| 評価指標区分： | ・補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 「明石の文化財」のコンテンツ増刷数 | | |
| 目標値： | 【現状値】 平成 30 年度 0 冊 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 2,000 冊 | | |

| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
| 冊 | 冊 | 冊 | 冊 | 冊 | 冊 |
| | | | | | |

| 事業④： | 江井島の歴史や遺跡を巡るﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｶﾞｲﾄﾞ養成講座 | 実施団体： | 江井島まちづくり協議会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 人材育成 | 事業期間： | 平成 30 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | ①江井島の歴史や史跡を知る（学識者による講義・現地研修とガイド体験）②江井島の農業・漁港・酒造りを知る（歴史や伝統的な生活文化を学ぶため関係者による講義・現地見学と研修）③ワークショップ（ガイドの内容やコース等をまとめる） | | |
| 評価指標区分： | ・ボランティアガイド利用者数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | ボランティアガイドを利用し、江井島の歴史等を学ぶ人数 | | |
| 目標値： | 【現状値】 平成 30 年度 50 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 80 人 | | |

| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| | | | | | |

| 事業⑤： | 江井島の昔のはなしを聞き記録する | 実施団体： | 江井島まちづくり協議会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 普及啓発 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 江井島の昔の暮らしや慣習などを聞く会を年4回開催し、内容を記録する。各回80歳以上の住民３名程度から聞き取る。聞き取りの内容は70年ほど前の仕事、村の様子、学校、遊び、災害、行事、近隣の助け合いについて等を予定している。話し手の高齢者にとっては地域に貢献している意識が芽生え、参加者は地域の昔の暮らしや歴史を知ることで愛着や誇りにつながる。また、ホームページに掲載することで情報を共有することができる。 | | |
| 評価指標区分： | ・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 江井島地域の文化遺産継承に関わる、協賛企業団体数 | | |
| 目標値： | 【現状値】 平成 28 年度 1 団体 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 5 団体 | | |

| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
| 2 団体 | 団体 | 団体 | 団体 | 団体 | 団体 |
| 25% | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業⑥： | 文化遺産にふれあう「まち歩き探検」 | 実施団体： | 江井島まちづくり協議会 |
| 事業区分： | 普及啓発 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 平成27年に作成した「遺跡マップ」を利用して、多世代の地域住民と連携し、文化遺産にふれあう「まち歩き探検」を実施する。また事業者等の協力を得て、連携して取り組む。〈酒蔵コース（酒蔵会社）・江井島ぐるっと巡る（寺社）〉 | | |
| 評価指標区分： | ・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 江井島地域の文化遺産継承に関わる協賛企業団体数 | | |
| 目標値： | 【現状値】 平成 28 年度 1 団体 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 5 団体 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 団体 | 団体 | 団体 | 団体 | 団体 | 団体 |
| 25% | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業⑦： | 明石城関連シンポジウム | 実施団体： | 明石葵会 |
| 事業区分： | 普及啓発 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 専門家を招いたシンポジウムを文化博物館で開催する。また、次世代を担う子どもたちにパンフレットや現地見学を通して、地域の貴重な文化遺産である明石城とその時代に興味・関心を持ってもらうよう、普及啓発に努める。さらに、協賛企業を広げ、文化遺産の保全環境の整備を行っていく。 | | |
| 評価指標区分： | ・その他 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 明石城への年間入場者数 | | |
| 目標値： | 平成 28 年度 5,000 人 ⇒ 平成 33 年度 12,440 人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 6,200 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 16% | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業⑧： | 明石の石碑拓本採取 | 実施団体： | 江井島まちづくり協会 |
| 事業区分： | 普及啓発 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 江井島地域住民を対象に３０名ほど募集し実施する。講師を招き、拓本について学ぶ。江井島地域内の石碑・道標等の史跡の拓本を採取する。また地域のコミセン祭りなどで展示発表をする。 | | |
| 評価指標区分： | ・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 江井島地域の文化遺産継承に関わる、協賛企業団体数 | | |
| 目標値： | 平成 28 年度 1 団体 ⇒ 平成 33 年度 5 団体 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 団体 | 団体 | 団体 | 団体 | 団体 | 団体 |
| 25% | | | | | |

| 事業⑨： | 明石の布団太鼓プロジェクト | 実施団体： | 明石の布団太鼓プロジェクト |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 調査研究 | 事業期間： | 平成　25　年度 ～ 平成　33　年度 |
| 事業概要： | 平成２９年度においては、これまでの調査・研究対象に布団太鼓・だんじり・獅子舞に加えて、祭礼・神事及び行事等についても、写真・映像・音声など貴重な資料をさらに収集すると同時に、これまでに収集された動画や音声による記録資料を多くの人に公開するために報告会を行う。<br>【調査研究内容】関連文書・写真・記録等の資料及び証言・伝承等の情報の収集/現存する各布団太鼓・だんじり・獅子舞等の運用、保管状況の記録/各地域の祭礼・神事及び行事等の実施状況の記録（写真・映像・音源等）/収集資料の保存：データ化、閲覧システムの構築 | | |
| 評価指標区分： | （リストから選択してください。） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | データベース公開後の閲覧数 | | |
| 目標値： | 平成　31　年度　100　回　⇒　平成　33　年度　300　回 | | |

| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
| 回 | 回 | 回 | 回 | 回 | 回 |
| | | | | | |

| 事業⑩： | 明石の民俗文化財に関する調査研究 | 実施団体： | 明石市の民俗文化財調査団 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 調査研究 | 事業期間： | 平成　26　年度 ～ 平成　33　年度 |
| 事業概要： | 人々の生活に密接に関わるテーマを毎年設定し、それに沿った民俗文化財等の市内悉皆調査を実施、現在失われつつある伝統文化を記録化する。調査では、地域住民に協力をあおぎながら、地域に残る民具・写真・絵図・古文書の収集や古老への聞き取りなどを行う。古文書の解読・研究については、外部の有識者に協力を依頼する。調査後は報告書にまとめ、地域の公民館等に配布する。また、調査で明らかになったことを中心に地元の公民館を使って報告会を開催する。平成29年度は明石城の周りに形成された城下町を対象とし、江戸時代以降続いている魚町（魚の棚）や鍛冶屋町などにおける商工業に見る地域性を抽出し、記録化する。 | | |
| 評価指標区分： | （リストから選択してください。） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 成果物の増刷 | | |
| 目標値： | 平成　30　年度　年間500　冊　⇒　平成　33　年度　年間500　冊 | | |

| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
| 冊 | 冊 | 冊 | 冊 | 冊 | 冊 |
| | | | | | |

| 事業⑪： | 小久保三社神社秋祭りに使用する用具の修繕及び公開事業 | 実施団体： | 小久保村 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成　29　年度　～　平成　33　年度 |
| 事業概要： | 秋祭りに使用する長胴太鼓が経年劣化で傷みが進み、行事に使用する際に支障があるため、修繕を行い、氏子たちの安心感・行事参加への意欲向上を図る。特に太鼓は、だんじり巡行の際に主導的な役割を果たすため、子どもたちの憧れの的となっており、これにより、郷土の伝統行事の歴史や文化を学習するきっかけにもなる。また、地域住民の興味関心を喚起し、育成事業も合わせて実施することで伝統行事のさらなる活性化に繋がる。 | | |
| 評価指標区分： | ・祭礼行事への参加住民数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 小久保三社神社秋祭りに参加する人数 | | |
| 目標値： | 【現状値】　平成　28　年度　150　人　⇒　【目標値】　平成　33　年度　300　人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 200　人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 33% | | | | | |

| 事業⑫： | 鳥羽八幡神社秋祭りに使用する屋台の雲板彫刻の修繕 | 実施団体： | 鳥羽町内会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成　29　年度　～　平成　33　年度 |
| 事業概要： | 昭和44年に三木市平田地区から屋台を譲渡され、1年かけて改修したが、三木の前に福崎地方で30年余使用した屋台なので雲板部分が老朽化し、傷みが進んでいる。平成14年には老朽化を緩和させるために塗装を施したが、現在はひび割れが進んでいる状態である。彫刻を修繕することで安全に巡行することができ、見栄えも良くなることにより、町民の関心意欲を高め、秋祭りの継承を図る。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会への新規入会者数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 鳥羽八幡神社屋台保存会への新規入会者数 | | |
| 目標値： | 【現状値】　平成　28　年度　10　人　⇒　【目標値】　平成　33　年度　50　人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10　人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 0% | | | | | |

| 事業⑬： | 和坂秋祭りに使用する布団太鼓の修繕 | 実施団体： | 和坂太鼓保存会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 和坂布団太鼓は天保8年の明神講帳、太鼓内部の記載から安永2年制作と近年判明した。太鼓蔵が戦火に見舞われた際に一部焼失した部分は修理をしている。経年劣化による傷みの酷い箇所から、計画をたて、次世代に引き継ぐために修理をしている。30年度は修理計画の最終年度となる。約70年経過し、傷みの激しい布団部分のへびと変色しているへび止めの修理を行う。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会への新規入会者数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 和坂太鼓保存会の会員数の変化（維持） | | |
| 目標値： | 【現状値】 平成 28 年度 9 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 60 人 | | |

| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
| 9 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 0% | | | | | |

| 事業⑭： | 大蔵谷西之組用具新調事業 | 実施団体： | 稲爪神社神楽獅子舞大蔵谷西之組 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 稲爪神社の秋季例大祭に奉納される神楽獅子舞で獅子方が使用する衣装は制作より十年以上がたち、表面の色が剥げ、破れたりしてきている。大事に取り扱ってきたが、獅子舞の激しい動きに耐えられなくなってきているため、様式はそのままを残し新調する。<br>会員の獅子舞の芸の所得の指導をし、太鼓の演奏技術の継承・向上も図る他、地域の小学生の会員獲得のために、小学校で行わる地域のイベント等で技芸を披露し参加を呼び掛けるなどの次世代継承に向けた活動も実施する。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会への新規入会者数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 稲爪神社神楽獅子舞大蔵谷西之組への新規入会者数 | | |
| 目標値： | 平成 28 年度 3 人 ⇒ 平成 33 年度 20 人 | | |

| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
| 10 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 41% | | | | | |

| 事業⑮： | 八木住吉神社秋祭りに使用する用具の補充 | 実施団体： | 西八木自治会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成　29　年度　～　平成　33　年度 |
| 事業概要： | 現在、八木住吉神社秋祭りでは神輿1基、大人屋台２基、子供屋台2基が練っている。大人屋台の担ぎ手が減っている現状では、子供屋台の担ぎ手及び、育成が必要である。それには、老朽化している子供屋台の修繕が急務である。また不足している乗り子の法被を補充することにより、揃いの法被を着る一体感を持ち、祭りへの関心、仲間意識を高めることに繋がる。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会への新規入会者数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 西八木祭保存会への新規入会者数 | | |
| 目標値： | 【現状値】　平成　28　年度　90　人　⇒　【目標値】　平成　33　年度　150　人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 110　人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 33% | | | | | |

| 事業⑯： | 秋祭りに使用する用具の修繕及び公開事業 | 実施団体： | 清水自治会太鼓保存会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成　30　年度　～　平成　33　年度 |
| 事業概要： | 秋祭りに使用する布団太鼓が経年劣化で傷んでおり、行事に使用する際に支障がでるため、一部を修繕し、修理現場を一般公開する。布団太鼓を修繕することにより、安心感を持って行事に参加することができ、意欲向上に繋がる。また、修理現場を公開することで、行事の歴史を学習するきっかけともなり、郷土や伝統行事への愛着、保護意欲の育成にも繋がる。 | | |
| 評価指標区分： | ・祭礼行事への参加住民数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 清水秋祭り神事に参加する住民数 | | |
| 目標値： | 【現状値】　平成　29　年度　300　人　⇒　【目標値】　平成　33　年度　500　人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| | | | | | |

| 事業⑰： | 春・秋祭り・正月祈願に使用する用具の修繕及び公開事業 | 実施団体： | 松陰農会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成　29　年度　～　平成　33　年度 |
| 事業概要： | 松陰地区での春季・秋季の伝統的な祭礼で使用する、布団太鼓・子ども太鼓・獅子・だんじりが経年劣化で傷んでおり、行事に使用する際に支障が出るため修理をする。また修理現場の一般公開を実施する。行事の歴史、生い立ちや経過を学習することにもなり、郷土や行事への愛着・継承意欲の育成を図る。また太鼓、獅子技能取得者により、保存会員４０名程への技芸の継承も行うとともに、保存会員、男女を問わず乗り子を募集し、伝統行事の継承、活性化につなげる。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会会員数の変化（維持） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 松蔭農会の現会員のうち、高齢の会員が脱退した際にも会員数が減少しないように入会者を増やし、また維持する。 | | |
| 目標値： | 【現状値】　平成　28　年度　156　人　⇒　【目標値】　平成　33　年度　160　人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 156　人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 0% | | | | | |

| 事業⑱： | だんじり用紅提灯製作及び雄獅子修理 | 実施団体： | 鳥羽野々上自治会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成　30　年度　～　平成　33　年度 |
| 事業概要： | 秋祭りでは氏子地域をだんじりで巡行し、獅子舞を演舞している。長年演舞を行ってきたため、雄獅子の下あごが破損している。破損部分が小さいため、部分的な修理にて対応しようと考える。雄獅子は口に剣を咥える演舞により、剣と牙が接触し、牙の金箔が剥離しているので、剥離箇所に金箔を押す。また、だんじり巡行の際に、切長の紅提灯を６燈装飾する。巡行中は提灯が揺れるため、だんじり本体との接触部分に傷みがでてきている。約20年前に製作した提灯の経年劣化を考慮し、６燈の製作を考える。 | | |
| 評価指標区分： | ・祭礼行事への参加住民数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | だんじり引手及び獅子舞の舞手の確保 | | |
| 目標値： | 【現状値】　平成　29　年度　24　人　⇒　【目標値】　平成　33　年度　40　人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業⑲： | 谷八木住吉神社春・秋の祭礼に使用する用具の修理と新調事業 | 実施団体： | 谷八木自治会 |
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 30 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 布団太鼓屋台の台車車輪は金属製で外輪部分はラバーゴムで覆われているため、経年劣化及び屋台重量により摩耗が激しい。屋台巡行にも支障をきたしており、安全確保のために修理を行い、秋の祭礼には、より身近に感じてもらえるよう巡行経路を拡大する。また、獅子頭は経年劣化により、顎接続部分が損傷、欠落している。この数年は保存会員が応急修理で対応してきたが、修理が厳しくなってきており、新調する。春と秋の祭礼には、神社境内で獅子舞を披露し、伝統文化行事への関心と参加を促し、地域との連帯感の醸成に資する。 | | |
| 評価指標区分： | ・祭礼行事への参加住民数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 昼宮での神社参拝、祭礼行事見学者 | | |
| 目標値： | 【現状値】 平成 29 年度 320 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 450 人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業⑳： | 住吉神社秋祭りに使用する布団太鼓の改修及び公開事業 | 実施団体： | 東嶋自治会 |
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 30 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 住吉神社秋祭りに使用する布団太鼓の担ぎ棒が経年劣化により傷んでおり、祭りに使用する際に安全性に危惧があるため、担ぎ棒の交換修理をし、その際に棒締めの作業公開とともに、後継者育成を兼ねて、棒締め講習会を実施する。現場公開は、東嶋住吉神社内布団太鼓蔵前にて棒締め作業実施予定の9月に数日間に渡り実施する。また、棒締め作業の講習を行うことにより、一部の者が行ってきた棒締めを若手保存会に習得させ、後継者育成を図る。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会会員数の変化（維持） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 祭り運営に携わる自治会傘下の東嶋保存会の会員数の変化 | | |
| 目標値： | 【現状値】 平成 29 年度 70 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 90 人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| | | | | | |

| 事業㉑： | 林神社秋祭りに使用する神輿の修理 | 実施団体： | ファミールハイツ明石自治会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 神輿は入念に点検し、祭後は大切に保管するなど丁寧に扱ってきた。しかし、巡行の際に木の枝等との接触で、屋根、欄間や本体部分を傷つけることが多く、破損した昇総才を修繕する。見栄えが良くなった神輿で巡行することで祭りへの関心や意欲向上につなげ、祭りの継承を図る。 | | |
| 評価指標区分： | ・祭礼行事への参加住民数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 祭礼参加者の増加（ファミール住民、地域住民） | | |
| 目標値： | 【現状値】 平成 28 年度 188 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 226 人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 167 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| -55% | | | | | |

| 事業㉒： | 福里村伝統文化財保存事業 | 実施団体： | 福里自治会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 30 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 御厨神社秋祭りに使用する布団太鼓屋台が経年劣化により使用に耐えられなくなってきたため、修繕を行う。布団太鼓屋台の修繕によって維持保存することにより、自治会員に歴史伝統を認識させ、御厨神社秋祭りへの参加意欲を向上させ、今後の自治活動への一助とする。 | | |
| 評価指標区分： | ・祭礼行事への参加住民数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 御厨神社秋祭りの参加住民数 | | |
| 目標値： | 【現状値】 平成 29 年度 200 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 300 人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| | | | | | |

| 事業㉓： | 王子布団太鼓本体改修および公開事業 | 実施団体： | 王子布団太鼓保存会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 江戸時代に製作され、30年近く使用されないまま放置されていた布団太鼓が平成26年度に譲渡された。老朽化による傷みが各所に見られる。布団台の本体部分、飾り金具のメッキ剥がれ・欠損のほか、荷重をうける枡組や斗は割れが発生しているため修理を行う。また布団締めも破損が目立つため、部分的な生地の交換、水引幕用房も経年劣化により汚れが目立つため交換する。10月14日～15日の町内巡行にて地域住民にPRを行う。また地域のシンボルとして補修した布団太鼓を用い屋台練り等の指導をし、後継者の育成、伝統文化の次世代継承を実施する。 | | |
| 評価指標区分： | ・祭礼行事への参加住民数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 小学生の秋祭りへの参加動員数 | | |
| 目標値： | 平成 28 年度 3 人 ⇒ 平成 33 年度 8（4人×2グループ） 人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 40% | | | | | |

| 事業㉔： | 魚住住吉神社秋祭りに使用する布団太鼓の修理 | 実施団体： | 西島自治会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 魚住住吉神社の秋祭りは播州秋祭りの締めくくりの祭りでもある。布団太鼓の担ぎ棒に棒を縦断する大きなひび割れ、ささくれなどのが劣化があるため、安全な巡行できるよう長棒4本、短棒4本の計8本を入れ替える。安全性が確保され、秋祭りの参加者の安心感、行事参加への意欲向上に繋がる。練りの指導などを行い、後継者育成・伝統行事の継承を図る。 | | |
| 評価指標区分： | ・祭礼行事への参加住民数 | | （具体的な指標は次のとおり） |
| 具体的な指標： | 担ぎ手の増加（現状100人よりの増加） | | |
| 目標値： | 平成 28 年度 100 人 ⇒ 平成 33 年度 200 人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 150 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 50% | | | | | |

| 事業㉕： | 大蔵谷獅子舞に使用する用具の修繕 | 実施団体： | 大蔵谷獅子舞保存会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 大蔵谷の獅子舞は戦国時代から伝承されたのが始まりとされている。今回修繕するかやは高価なものであり、保存会員の宝であるため大切に使用しているが、当保存会の芸風は荒々しく激しい踊りであり、飛ぶ、跳ねる、転び回る等の踊りが多くあるため、生地のほつれややぶれ、馬毛の抜け、小さな破損等が積み重なり傷みが相当ひどい状態である。9月までに修繕を完成させ、10月の秋祭りで使用する。伝統的な舞の技芸や演奏の継承を実施するほか、次世代継承に向けて親子教室も実施し地域の若年層の会員獲得に努める。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会会員数の変化（維持） | | （具体的な指標は次のとおり） |
| 具体的な指標： | 大蔵谷獅子舞保存会の会員数の変化（維持） | | |
| 目標値： | 平成 28 年度 60 人 ⇒ 平成 33 年度 85 人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 0% | | | | | |

| 事業㉖： | 文化遺産継承事業に伴う用具等の新調 | 実施団体： | 的射行事保存会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成　29　年度 ～ 平成　33　年度 |
| 事業概要： | 祭事に着用する着物を用意し毎年着用してきたが、最近の青年の体格が大きくなり当保存会が保有する着物のサイズでは小さい現状である。地域の伝統ある神聖な祭事であるので、身丈にあった着物をきちんと着用し厳粛に遂行することで、見物人の好感につながり、保存会員や参加者の士気高揚や意欲向上につながると考える。また若年者に合う用具を用意することは、次世代への行事継承のためにも大変重要である。後継者育成として、行事の開催前から射手の若者に伝統的な作法等を指導し、伝統文化の継承を図る。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会会員数の変化（維持） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 的射行事保存会の現行役員８名を維持していく。 | | |
| 目標値： | 平成　28　年度　8　人　⇒　平成　33　年度　8　人 | | |

| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
| 8　人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 100% | | | | | |

| 事業㉗： | 大窪八幡宮　秋祭りに使用する用具修繕及び公開事業 | 実施団体： | 西大窪自治会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成　29　年度 ～ 平成　33　年度 |
| 事業概要： | 大窪八幡宮秋祭りに使用する和太鼓が経年劣化・老化でひび割れしており、安全に行事を実施するために張替修理を行う。修理を行い安心感を持って太鼓の練習を実施し、行事への参加意欲向上につなげる。修理は8月までに完了させ、9月に太鼓の練習をし、10月の大久保八幡宮秋祭りで使用する。自治会員獲得に努め、小中学生を中心に参加を呼び掛けるとともに、太鼓の技芸等を指導・伝承を実施する。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会会員数の変化（維持） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 西大窪自治会の保存会会員数の変化 | | |
| 目標値： | 平成　28　年度　350　人　⇒　平成　33　年度　600　人 | | |

| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成　29　年度 | 平成　30　年度 | 平成　31　年度 | 平成　32　年度 | 平成　33　年度 | 平成　34　年度 |
| 400　人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 20% | | | | | |

| 事業㉘： | 岩屋神社秋祭りに使用する用具の修繕及び公開事業 | 実施団体： | 岩屋神社布団太鼓保存会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 岩屋神社秋祭りの布団太鼓は担ぎ手不足のため50年間途絶えていた。平成29年度に再興するにあたり、布団太鼓の布団締めが約70年の経年劣化により痛んでいるので修繕する。布団締めは目立つ場所であるので修繕し見栄えを良くし、地域住民の愛着を高め、布団太鼓および伝統行事の次世代継承につなげる。あわせて修理現場の一般公開を実施し、伝統行事の活性化を図る。公開は5月に行い修理は7月までに完了させ、秋祭りに使用する。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会への新規入会者数 | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 岩屋神社布団太鼓保存会への新規入会者数 | | |
| 目標値： | 平成 28 年度 24 人 ⇒ 平成 33 年度 100 人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 34 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 13% | | | | | |

| 事業㉙： | 春・秋祭りに使用する用具の修繕及び公開事業 | 実施団体： | 山の下伝統行事保存会 |
|---|---|---|---|
| 事業区分： | 用具等整備 | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 |
| 事業概要： | 春・秋祭りや幼稚園、障がい者施設慰問などで使用する獅子頭が痛んでおり、行事に使用する際に支障が出るため修理をする。前年度までの用具の修理の効果として、見学客・参加者の増加がみられ、地域幼稚園の行事に組み込まれる等地域住民の関心も高まり、会員や山車の乗子も増加している。今年度も修理により伝統行事への愛着や青年会・保存会の安心感や意欲向上につなげたい。また青年会・保存会の後継者育成事業も併せて実施し、さらなる活性化を図る。 | | |
| 評価指標区分： | ・保存会会員数の変化（維持） | （具体的な指標は次のとおり） | |
| 具体的な指標： | 山の下伝統行事保存会の保存会会員数の変化 | | |
| 目標値： | 平成 28 年度 65 人 ⇒ 平成 33 年度 90 人 | | |
| 進捗状況： | 各年度、状況値、目標に対する達成率 | | |

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 | 平成 34 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 65 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 0% | | | | | |